

ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



第21回 お殿様に愛された山 —天仲寺山(南側編)—

町内で初日の出参り

みなさん、初日の出はどこからご覧になりますか？テレビなどでは富士山でご来光を拝む登山客の姿もおなじみになっていますね。実は、町内にある「天仲寺山」も絶好の初日の出スポットなんです。天仲寺山の標高は30m弱、道路で南北に分断されていますが、園路や休憩所・トイレなど、山全体が公園として整備されています。稲荷神社や天仲寺古墳などがある南側の山から見る初日の出はとりわけ美しく、山の管理をされている地元グループ「御山会」のみなさんのご接待が催されることもあります。この天仲寺山の歴史について、1月号・2月号の2回に分けて述べていきます。今回は、南側編です。

今はなき「天仲寺」

天仲寺山という名は、昔この地にあった「天仲寺」という寺院に由来するものと思われます。1666年、当時の中津藩主・小笠原長次公が死去した際、菩提寺として創建されました。本堂は、明治初期の学制施行に伴い設置された初代吉富小学校の校舎として利用された過去もあります。その後寺は財政難に陥り、灯籠などを売り払ってしまったため廃寺の危機に瀕しましたが、明治末期に大本山の命を受けた島田壽海の尽力により再興を遂げました。近年は、定期的に句会が催されるなどしていましたが無住の時期が長く続き、老朽化が進んだこともあり、本堂は平成15年に取り壊さ

れました。現在は更地となっていますが、境内の池や手洗石などは状態よく保存され、本堂が存在した当時の雰囲気を感じることができます。また、平成26年には本堂の跡地そばに多機能トイレも整備され、来訪者の利便性も高まりました。



新設された多機能トイレ

風光明媚な歴史スポット

小笠原長次公は、中津領内が一望できるこの天仲寺山を愛し、たびたび訪れていたといわれています。自身の没後は天仲寺山に埋葬してほしいという遺言を残したほどで、昭和46年、公園整備のためその墳墓を掘り起こした際には、実際に遺言通りの姿で地中に埋葬されているのが確認されています。現在も、毎年5月29日の命日には「吉富歴史文化の会」により墓前祭が催され、多くの方々が名君を偲んでいます。この山には他にも、芭蕉の句碑など5基が並ぶ「美濃派の句碑」や樹齢100年を超えるクスノキとシラカシが寄り添うようにして生えている「夫婦木」など、歴史の息吹を感じるスポットが随所にあります。また山頂からは、町内はもちろん中津市内や八面山なども一望できます。ここから山国川や中津城を眺めつつ、天仲寺山を愛したお殿様に思いを馳せてみませんか？



在りし日の天仲寺



現在の天仲寺跡地



東側から山をのぞむ(昭和初期)